

令和元年度(2019年度)の曾根沼におけるオオクチバスの抑制状況と

在来魚介類の生息状況

田口貴史・石崎大介・根本守仁

1. 目的

オオクチバス、ブルーギル（以下、それぞれバス、ギル）駆除のモデル水域として選定された曾根沼（滋賀県、彦根市）では、平成15年度から外来魚駆除を実施しており、近年ではバスの減少と在来魚介類（魚類とエビ類）の増加が顕著である。本年度も過年度に引き続き外来魚駆除と在来魚介類の生息状況調査を実施したのでその結果を報告する。

2. 方法

令和元年度の曾根沼では、表1の調査（駆除）を実施した。バスの抑制（生息）状況については、これまで曾根沼で実施されてきた駆除手法のうち、長期的に捕獲効率（CPUE）を把握している春の電気ショックボートでの駆除（以下、EFB春）とタモ網での仔稚魚すくいの結果から評価した。在来魚介類の生息状況については、小型定置網でのCPUEと捕獲された種数により評価した。

3. 結果

EFB春ではバスが34尾駆除され、うち約半数の18尾が標準体長270～420mmの親魚であった。そのため、前年度と比べて親魚捕獲CPUEが上昇した（図1）。一方で、仔稚魚すくいのCPUEは前年度と同程度であった。このことから、本年度の駆除では、前年度調査時に取り逃がした親魚を駆除でき、仔稚魚の発生を前年度並みに抑制できたと考えられる。

小型定置網での在来魚介類のCPUE（操業1日あたりの捕獲尾数）と確認種数は、前年度から増加し（図2）、在来魚介類にとって良好な状況が継続していると考えられる。

今後も在来魚介類が豊富な状況を維持し続

けるため、バス駆除を継続し、その生息密度が低い状況を保つことが望まれる。

表1 令和元年度に曾根沼で実施した調査（駆除）

調査（駆除）内容	調査（駆除）時期	調査（駆除）日数	
電気ショックボート	4月上旬、5月上旬	3日	
仔稚魚すくい	5月中旬から6月中旬	7日	
小型三枚網	5月中旬から6月中旬	4日*	
在来魚介類モニタリング手法	小型定置網	4月から9月	各月2日

*仔稚魚すくいと同時に実施。保護親魚が確認され、駆除を試みた日数を記載。

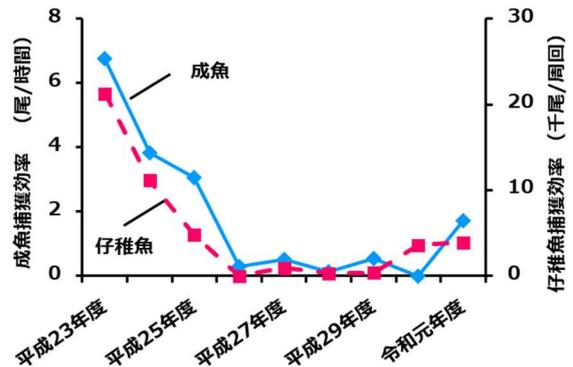


図1 バス成魚（EFB春）と仔稚魚（仔稚魚すくい）の捕獲効率の経年変化

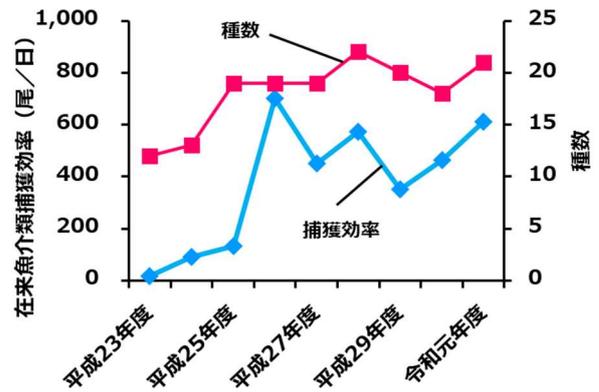


図2 小型定置網での在来魚介類の捕獲効率と捕獲種数の経年変化（4～9月）

*本報告は水産庁からの委託事業「効果的な外来魚抑制管理技術開発事業」の成果の一部である。